

第13回 武井武雄記念

日本童画大賞 受賞作品集

---

第13回  
武井武雄記念

武井武雄「驚くべき人間」1970年



# タブロー／絵本作品募集

応募締切：2025年11月21日(金)

● タブロー部門 大賞 賞金 50万円 [テーマ：ともだち]

審査員 根岸芳郎 [画家]・村井美樹 [タレント・俳優]  
山岸吉郎 [イルフ童画館館長]

● 絵本部門 大賞 賞金 50万円 **フレーベル館より出版**

審査員 黒井健 [絵本画家]・竹迫祐子 [(公財)いわさきちひろ記念事業団理事]  
池上理恵 [フレーベル館取締役執行役員]

● こども絵本部門 審査員 イルフ童画館

第12回 日本童画大賞 絵本部門 大賞作品が出版されました！

『あっぱれ！われらのてんぐさま』  
作・絵／オノガワアサコ

定価：1,540円(税込)  
発行：フレーベル館  
初版：2025年1月  
ISBN：9784577053188



全国の書店・ネット書店にて  
好評発売中

主催：岡谷市、イルフ童画館（公益財団法人おやか文化振興事業団）

共催：フレーベル館、信濃毎日新聞社、岡谷市教育委員会

後援：文化庁、長野県、長野県教育委員会、公益社団法人信濃教育会、公益財団法人八十二文化財団、公益財団法人信毎文化事業財団、  
絵本学会、岡谷市美術会、信州・市民新聞グループ、中日新聞社、長野日報社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、  
TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、エルシーブイ株式会社、白泉社（MOE編集部）、PHP研究所、富山房

協賛：諏訪信用金庫



〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1  
☎0266-24-3319 <https://ilf.jp>

日本童画大賞



# 日本童画大賞



武井武雄記念日本童画大賞運営委員会

委員長・岡谷市長

早出一真

---

第13回武井武雄記念「日本童画大賞」が、全国から寄せられました多くの応募作品により盛大に開催できましたことに、関係の皆様へ衷心より感謝を申し上げます。

また、作品の審査にご尽力を賜りました、黒井健様、根岸芳郎様、村井美樹様、竹迫祐子様、池上理恵様に、改めて厚く御礼を申し上げます。

今回の日本童画大賞は、前回に引き続きタブロー部門、絵本部門、こども絵本部門の3部門での開催となりました。タブロー部門247点、絵本部門155点、こども絵本部門197点と、全国の皆様から数多くの作品をご応募いただきました。

いずれの部門においても、“童画”（子どもの心にふれる絵）という言葉を生み出した武井武雄先生の想いを受け継ぐ、創造性にあふれた完成度の高い作品が多く寄せられました。各部門の受賞作品には、作家として輝かしい将来に期待が持てる、感性豊かな素晴らしい作品を選出いたしました。

今後も、この日本童画大賞が、童画家や絵本作家を目指す皆様の登竜門として輝き続けるとともに、「童画」の精神を継承する新たな才能が輩出される契機となり、日本の児童文学の発展に寄与することを心から願っております。

結びに、絵本部門大賞作品を出版していただきます共催の株式会社フレーベル館様、ならびに第1回より共催いただいております信濃毎日新聞社様、諏訪信用金庫様をはじめ、ご後援、ご協賛をいただきました各社、各団体、そして関係各位に心より御礼を申し上げます。

---

# 第13回 武井武雄記念 日本童画大賞 概要

主催：岡谷市、イルフ童画館（公益財団法人おかや文化振興事業団）

共催：フレーベル館、信濃毎日新聞社、岡谷市教育委員会

後援：文化庁、長野県、長野県教育委員会、公益社団法人信濃教育会、公益財団法人八十二文化財団、公益財団法人信毎文化事業財団、絵本学会、岡谷市美術会、信州・市民新聞グループ、中日新聞社、長野日報社、NHK 長野放送局、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、エルシーブイ株式会社、白泉社（MOE 編集部）、PHP 研究所、富山房

協賛：諏訪信用金庫

	応募締切	2025年11月21日（金）
	作品提出	2025年11月29日（土）～12月1日（月）
	絵本部門一次審査	2025年12月18日（木）
審査日程	絵本部門一次審査通過者 絵本原画提出	2026年1月7日（水）～1月9日（金）
	審査会・受賞者電話連絡	2026年1月15日（木）
	授賞式	2026年2月14日（土）
	受賞作品紹介展示	2026年2月15日（日）～2月22日（日）

## CONTENTS

<b>タ ブ ロ ー 部 門</b>			
日本童画大賞	か い す み	優しくなりたい	4
優 秀 賞 ( 信 毎 賞 )	山 口 新	ひみつ	4
審 査 員 特 別 賞	a y a	とおくのともだち	5
	桑 澤 里 美	私のともだち	5
	山 口 真 也	セーター	5
<b>絵 本 部 門</b>			
日本童画大賞	ケイツカサ	ニンじゃがポテト	6
優 秀 賞 (諏訪しんきん賞)	けしょうまい	なくいえ	7
審 査 員 特 別 賞	山 口 法 子	月あかり文庫	8
	山 本 い つ こ	雨乞いとクジラ	8
	たかはしあめ	うらしましんかい	8
<b>こ ども 絵 本 部 門</b>			
イ ル フ 賞	黒 岩 和 花	十五夜と月	9
ラ ム ラ ム 賞	篠 塚 つ む ぎ	はちのお昼寝	9
赤ノッポ青ノッポ賞	赤 木 紗 彩	ビルさんの生ビールはにがい!!	9
受賞者コメント			10
審 査 員 講 評	根 岸 芳 郎		15
	村 井 美 樹		16
	黒 井 健		17
	竹 迫 祐 子		18
	池 上 理 恵		19
審査会・授賞式・受賞作品紹介展示			20
応募者数内訳			21
あ と が き			22



タブロー部門 日本童画大賞

優しくなりたい

かいすみ



タブロー部門 優秀賞（信毎賞）

ひみつ

山口新



タブロー部門 審査員特別賞

とおくのともだち

---

aya

タブロー部門 審査員特別賞

私のともだち

---

桑澤里美



タブロー部門 審査員特別賞

セーター

---

山口真也





絵本部門 日本童画大賞

## ニンジャがポテト

ケイツカサ



ちいさなまちのかたすみにひっそりにぎわうポテトのおみせ「ポテポテン」がありました。店長の名前は、そのまま「ポてんちょう」。まちでは、はたけあらしのイノシシが出て人々を困らせていました。ある日うわさのイノシシがカボチャさんの畑に現れます。そこに姿を見せたのは、おいもの忍者「ニンジャがポテト！」。チップスしゅりけん！ポテ刀ぎり！などの美味しい技でおなかの空いていたイノシシを倒します。そして「おなかが空いたのならポテトをお食べなさい」とポテポテンのチラシを渡して消えていくのでした。なぞのヒーロー、ニンジャがポテト！その正体は誰なのか……。



絵本部門 優秀賞（諏訪しんきん賞）

なくいえ

けしょうまい



ぼくは、代々続く町一番の漁師の家です。雪の降るお正月に、トキという名前のお嫁さんがやってきました。しばらくして、トキさんにそっくりな女の子が生まれ、ぼくはうれしくてキューと鳴きました。うれしい日も悲しい日も、ぼくはいつもトキさんのそばにいました。50回目のお正月を迎えたある日、地面がぐらっと揺れ、ぼくの体は傾いてしまいます。トキおばあちゃんの帰る場所を守るため、ぼくはトキおばあちゃんに聞こえるように体じゅうをキューキューと鳴らしました。



絵本部門 審査員特別賞

## 月あかり文庫

山口法子

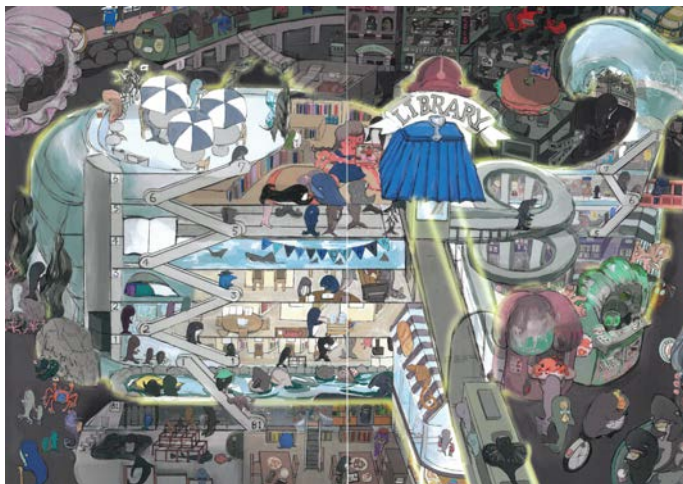
日照りに悩む村に住む雨郎は、雨を降らせるクジラを探す旅に出ます。途中、雨に悩む村の話聞き向かうと、尻尾が木に引っかかった、雨を降らせるクジラがいました。木を切ってクジラを助けた雨郎は、お礼にクジラを呼ぶ笛を貰います。村に帰った雨郎は笛でクジラを呼び、村に雨を降らせることができました。この笛を自分の村のためだけには使えないと考えた雨郎は、日照りで悩む場所に行き、クジラを呼んで雨を降らせる、雨乞いになったのでした。



絵本部門 審査員特別賞

## 雨乞いとクジラ

山本いつこ



絵本部門 審査員特別賞

## うらしましんかい

たかはしあめ

夜、ライとトーは月のしずくを集めて明かりを灯し、月あかり文庫は開きます。ライは誰かにとって必要な本をいつでも見つけることができます。いつも自分の家を忘れてしまうたぬきのワスケ、喉を痛めて鳴けない鳥さんなど、悩みを抱えるお客さんに、その時にぴったりの本を手渡します。嵐がやってきてお店のテーブルも月のしずくもどこかに行ってしまいますが、本を渡したお客さんたちがやってきます。たぬきのワスケは案内板を直したり、鳥さんは歌ったり…いつの間にかあたたかいお店の日常が戻っていました。

だいちゃんは足にビニールが絡んだオサガメさんを助けます。オサガメさんはお礼に竜宮城に案内してくれるといいます。昔話『うらしまたろう』と違い、今の時代のまま家に帰してくれると言われて、悩んだ末にだいちゃんは海の中へ。たどり着いたのは真っ暗な深海でした。深海の図書館で読み聞かせを聞いたり、深海の子供と遊んだり、楽しい時間を過ごします。帰りがけにオサガメさんから玉手箱を貰います。家に帰っただいちゃんは深海での出来事を家族に話して、最後にその玉手箱を開けると…



ある十五夜、月は太陽とケンカし、「もう光らせてやらない!」と言われてしまいます。お月見を楽しみにしていた女の子が外を覗くと、月が見えません。月は見つけてもらえないさみしさと、自分は光ってこそ意味がある存在だと気づきます。月が太陽にあやまると、太陽も同じ気持ちだったと伝え、二人は仲直りし、私たちは今日も月を見ることができます。

こども絵本部門 イルフ賞

### 十五夜と月

黒岩和花

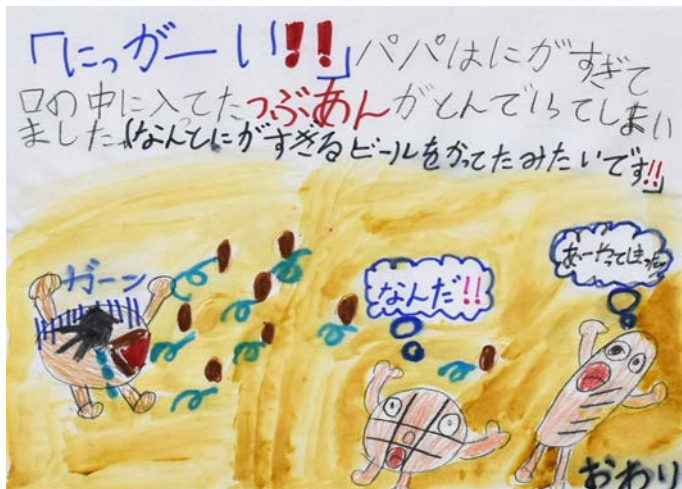
日なたぼっこが大好きな猫のはち。人間が家に帰ってくると無理やり抱っこされて、せっかくのお楽しみ時間が終わってしまいます。本当に嫌でもううんざりと思いつつも、最近抱っこが好きになったのはどうしてでしょう?今日は抱っこするのをゆるしてあげます。



こども絵本部門 ラムラム賞

### はちのお昼寝

篠塚つむぎ



ある日パンファミリーがいました。仕事を頑張ったドラやきパパのためにフランスパンママは、ビルさんから生ビールを買います。嫌がるパパに無理やり生ビールを飲ませると「にっがい!」とパパの口の中に入っていたつぶあんが飛んでいってしまいました。

こども絵本部門 赤ノッポ青ノッポ賞

### ビルさんの生ビールはにがい!!

赤木紗彩

## タブロー部門 日本童画大賞

## 優しくなりたい

かい すみ

作品のテーマが「ともだち」なので、昔を振り返りながら描きました。私は学生の頃から人付き合いが非常に苦手で、いつも教室の隅でノートに絵を描く、無口な子供でした。友達（他者）と関わるのが酷く億劫で、すれ違いや誤解に毎日悩まされました。「傷つけない 傷つきたくない」そう頭が、体が、私全部が強く思いすぎて、逆効果を生んでしまうのです。「優しいとは何なのか」当時ふと、そんなことを考えていたのを思い出しました。絵の中の少女も熊も、きっと他の生物も共に繊細な悩みを抱えています。「傷ついた時間を優しい時間で取り戻せますように」それが私の心からの願いです。この度は大賞に選んで頂きありがとうございました。

&lt;略歴&gt;

神奈川県生まれ。

武蔵野美術大学造形学部卒業。

第11回有田川町絵本コンクール優秀賞受賞。

2023年「ぼくのアコーディオン」（ひかりのくに）出版。

## タブロー部門 優秀賞（信毎賞）

## ひみつ

山口 新

「ともだち」という言葉から私が思い出すのは、子供の頃に参加したとあるキャンプのバンガロー、二段ベッドの上でのことです。夜こっそりと集まって、懐中電灯が輝くシートの中、こわい話をしたり、とっておきの宝物を披露したり、青りんごのガムを分けあったり・・・こどもだけのひみつの時間。

あの頃の私にとって、「ぼくにはひみつを分けあったともだちがいるのだ」というぬくもりはかけがえのないものであり、キャンプが終わった後も心をあたためてくれたのでした。

三十年ほども時を経た今、二人の娘たちがひみつの世界で楽しそうに遊ぶ様子を眺めながら、そんなことを思い出して描いた絵です。

&lt;略歴・所属・画歴&gt;

2011年 グループ展「家をささげる歌」 Galleria Ponte(石川県)

2011年 金沢美術工芸大学 油画専攻 卒業

2012年 企画展「New year selection」 Gallery Art Point(銀座)

2012年 企画展「Art Wave Exhibition vol.11」 RECTO VERSO GALLERY(東京)

2013年 絵本「自由 キャメルンシリーズ 10」絵を担当 キャメルン出版発行

2020年 第一回いのちのこば社絵本大賞 期待賞受賞

2021年 絵本「ソロソさんのレモンの木」絵を担当 いのちのこば社発行

2021年 企画展「TEGSMI, a decade of each それぞれに、10年のこと」 前橋市芸術文化れんが蔵(群馬)

2021年 妻と共に築約250年の土蔵をリノベーションし、古本・雑貨・Galleryのお店、「朝陽堂」をオープン。店内の美術や展示を担当

\*現在は中学校で美術教師をしつつ、朝陽堂のアトリエで油画やイラストを制作しています。

タブロー部門 審査員特別賞  
〔根岸芳郎 選〕

とおくのともだち

aya

この度は素晴らしい賞をいただきましてありがとうございます。  
 一步を踏み出せずにいた私が、初めて応募したコンペでこの様な賞を受賞する事ができて本当に嬉しく、また今後の大きな励みになりました。  
 テーマの『ともだち』を考えて、いろいろな絵が浮かびましたが離れてしまったともだちにいつでも会いに行けるというメッセージを込めてこの絵を描きました。  
 頑張ってくびをながくしたきりんが、遠くの月に会えた嬉しさを表現しましたが、たとえ会えなくても気持ちは側にあるという思いも込めました。  
 大地の方は少し寂しそうな雰囲気だけど、ともだちの月はいつも穏やかにそこにいてくれて、きりんは月がいてくれるだけで嬉しい。そんな寂しさや、嬉しさにあたたかさといろいろな思いをぎゅっと詰め込んだ一枚です。

<略歴>

2020年にイラストレーターの福井真一先生のF-SCHOOLでアクリル画を学び、その後独学で絵の勉強をしています。絵本にも挑戦したいと思っており童話のコンペは度々応募したことがありますが、絵のコンペは今回が初応募です。

タブロー部門 審査員特別賞  
〔村井美樹 選〕

私のともだち

桑澤里美

この度はイルフ童画館の童画賞に選んで頂き誠にありがとうございます。  
 童画が好きな子供たち、また私を含めいつまでも童画を愛し続ける大人たちの一人として、ささやかながら童画という文化へ貢献致せたことを真に光栄に存じます。

今、世界は見えていたくないものに溢れています。心無い言葉や愚かな行爲が蔓延り気持ちが荒む日々ですが、子供達が眼にするものは美しいもの、楽しいもの、優しいものであって欲しい。そんな世界を見せてくれるのが童画であり、世界が求める平和へ最も身近な存在であると信じています。  
 私の描いた絵を子供達はどんな風に見てくれるのか、何を感じてくれるのか。そんなことを想像しながら日々制作に励んでいます。

<略歴>

地域劇団の公演、イベントのイラストなど手掛けてまいりました。また近隣のカフェなどにイラストを展示させて頂いています。

タブロー部門 審査員特別賞  
〔山岸吉郎 選〕

セーター

山口真也

この度は第13回武井武雄日本童画大賞タブロー部門にて審査員特別賞に選んで頂きありがとうございます。

今回「ともだち」というテーマを描くにあたり1枚の絵からいくつものストーリーが浮かぶような絵を意識して描きました。  
 何かと厳しい時代になってきましたが与える気持ち、思いやりを大切に思えるような絵や絵本を描いていきたいと思っています。

<略歴>

神戸市出身

<受賞歴>

玄光社イラストレーション誌上コンペ「第170回 the Choice 宇野亜喜良選」入選

<展示歴>

2009年 SoHo art gallery 個展「utsuroyume」開催

2010年 東武百貨店 池袋店「ミステリと私」出展

2011年 Gallery MAISON D'ART 個展「enchantment」開催

SoHo art gallery 個展「tricolore」開催

東武百貨店 池袋店「メルヘニズム」出展

2012年 SoHo art gallery 個展「花」開催

2022年 gallery compliments 個展「~a decade later~」開催

他多数出展

## 絵本部門 日本童画大賞

## ニンジャがポテト

ケイツカサ

ニンジャがポテトは、こどももおとなも大好きな食べ物「フライドポテト」を土台に生まれたキャラクターです。困っている誰かを助けたいという優しさ、過ちを自ら謝罪できること、またそれを許せること、平和を愛する気持ちなどを汲みとってほしいという想いもあるのですが、とにかく「楽しい!」と感じてもらえる作品を目指しました。ニンジャがポテトの活躍を楽しんだり、ダジャレで笑ったり、読んだ後にニンジャがごっこで遊んだりしてもらえたら嬉しいです。

&lt;略歴&gt;

第1回よみきかせキャンパス えほんコンテスト グランプリ

おきたアートコンテスト おは朝賞 &amp; 古川アナ賞

## 絵本部門 優秀賞 (諏訪しんきん賞)

## なくいえ

けしょうまい

この度は、このような素敵な賞をいただき心よりありがとうございます。本作『なくいえ』は、私の故郷である石川を舞台にした絵本です。

2024年1月1日、石川を大きな地震がおそいました。

被災地を訪れる中で、傾いてキューキューとなく家、家を離れざるをえなかったおばあちゃん、そして今も変わらず美しい海の色と出会いました。そうした一つひとつの記憶や物語を、大切にこの絵本に紡いでいきました。

これまで結果に結びつかない日々もありましたが、故郷を描いた作品でこのような評価をいただけたことを、とても嬉しく思います。

これからも真摯に絵本制作と向き合っていきたいです。

&lt;略歴&gt;

大阪大学大学院 工学部 建築・都市計画論領域卒業

&lt;所属&gt;

広島県東広島市 認定こども園さざなみの森 保育スタッフ

&lt;受賞歴&gt;

大阪大学卒業設計最優秀賞

第31回 人間・環境学会発表賞

第11回 絵本出版賞入賞 「いしのいえ」

第25回 文芸社えほん大賞 佳作 「みゆきもりくんモノガタリ」

絵本部門 審査員特別賞  
[黒井健 選]

## 月あかり文庫

山口法子

「月あかり文庫」は、目の前にいる誰かに、そのとき必要な本を手渡す場所として描きました。この絵本の中ではそれは魔法のようですが、お腹を空かせた誰かに食べたいものを作ってあげたり、どんな言葉が励ましになるかを考えたりすることは、いつも人と人の縁で起きていることと同じなのかもしれません。制作しながらそのことに少しずつ気づいていったように思います。絵本の表現に挑戦するのはとても難しかったですが、これからも試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思っています。このような機会をいただき、心より感謝いたします。

<略歴>

2018年より、年に数回の個展を中心に制作・発表を行う。心象風景や物語性のある世界をテーマに絵画作品を制作。装画などのイラストレーションの仕事も手がけている。

絵本部門 審査員特別賞  
[竹迫祐子 選]

## 雨乞いとクジラ

山本いつこ

この度は素晴らしい賞を頂き、大変光栄に思っております。この「雨乞いとクジラ」は今の私が昔話を描いたらどのような絵本が創れるだろうか？と思ったのが制作の出発点でした。そして、娘を妊娠中に制作。作品が仕上がった次の日に娘は生まれてきました。きっと完成を待っていてくれたのだと思います。いつもインスピレーションをくれる息子や創作活動を支えてくれる家族に感謝しています。子育てに仕事、目まぐるしい毎日ですがまた次の作品、そのまた次の作品と創り続けていこうと思います。ありがとうございました。

<略歴>

1988年 兵庫県生まれ  
2012年 多摩美術大学 美術学部 絵画科日本画専攻 卒業  
作家として活動すると共に絵画・工作教室「アトリエ125」を主催  
Instagram アカウント @itsuko.ys ホームページ <https://itsuko-yamamoto.jimdofree.com>  
<受賞歴>  
2017年 第21回越後湯沢全国童画展 奨励賞 受賞  
2021年 第25回越後湯沢全国童画展 奨励賞 受賞  
2022年 第11回武井武雄記念日本童画大賞 タブロー部門 日本童画大賞 受賞  
2024年 第28回越後湯沢全国童画展 優秀賞 受賞

絵本部門 審査員特別賞  
[池上理恵 選]

## うらしましんかい

たかはしあめ

この度は審査員特別賞を頂き、心から光栄に思います。有り難うございます。作品づくりのきっかけは、哺乳類なのに陸ではなく海の中で、生きることを選んだ“くじら”に興味を持ったことでした。くじらの叡智（えいち）を具（そな）えた大らかな体から、深海の図書館を思いつき、人間の男の子が夏休みの冒険として深海の図書館へ遊びに行く物語を描きました。

<略歴>

多摩美術大学 大学院 卒業（美術研究科 絵画専攻）。東京都で、小・中学校4校の学校図書館司書をしています。年間180回学校で絵本の読み聞かせをして、こどもたちと絵本の出会いを微力ながら応援しています。絵が、しっかりと語っている絵本を作れるようになりたいです。日々コツコツ精進していきます。

こども絵本部門  
イルフ賞（中学1～3年生）

## 十五夜と月

黒岩和花

（岡谷市立岡谷北部中学校1年）

この「十五夜と月」は、月と太陽の友情をテーマに描きました。

月と太陽のように、それぞれの役割があり、みんなが必要な存在なんだよ。ということと、ケンカはしてもいいけど相手を認めて仲良くしよう。ということが伝わればいいなと思いました。

こども絵本部門  
ラムラム賞（小学4～6年生）

## はちのお昼寝

篠塚つむぎ

（国立市立国立第一小学校4年）

はちは、私が学校から帰って来ると、びっくりして私から逃げるんです。はちは私のことがあんまり好きじゃ無いからですかね？絵本を描いてますが、その中でも一番面白く書けたと思います！

こども絵本部門  
赤ノッポ青ノッポ賞（小学1～3年生）

## ビルさんの生ビールはにがい!!

赤木紗彩

（姫路市立広畑第二小学校2年）

どらやきのキャラクターのお話を作りたくて、苦い生ビールをのんだらどうなるか考えました。いろいろそうぞうしながら、絵をかくのがとても楽しく、おもしろいお話ができて、とてもうれしかったです。



タブロー部門 審査員

## 根岸 芳郎

〔画家〕

1951年長野県岡谷市生まれ。1973年武蔵野美術大学（油絵専攻）卒業後に渡米。1977年ボストン美術館付属美術学校卒業。1981年にはパリ青年ビエンナーレに出品。1995年から1996年パリ市に滞在し制作。現在は郷里岡谷市を拠点として制作、個展を中心に発表を続けている。東京国立近代美術館、大原美術館、文化庁など多くの美術館や公の施設に作品が収蔵されている。

今回のタブロー部門のテーマは「ともだち」で応募作品を見ていくと、その解釈は多義に渡りそれぞれ個性的だった。

日本童画大賞「優しくなりたい」（かいすみ）

雨が降りしきる「きのこ」の森の中にベニテングダケだろうか、大きな紅いきのこの下で雨宿りする女の子と熊がいる。熊はぬいぐるみかも知れない。気になるのは二人の冷めた様子で、そばを向いたまま沈黙が続く。森の仲間の動物たちもそれとなく気にしている様だ。何かあったのだろうか。「ともだち」だからこそうまく行かないこともある。気持ちとは裏腹に優しくなれない自分がある。作者は自分と向き合うことで内面の葛藤や逡巡を描いていて、しんみりとした共感がわいて来る。花や木よりもずっと繊細な生命体であるきのこ、そして降り止まない雨は、彼らを見守る「優しさ」の象徴かも知れない。

優秀賞「ひみつ」（山口新）

三人の子供が発見した光、その正体は何なのか。何かの啓示を受けたようだが、光の正体はわからない。手がかりは明暗法で巧みに描かれた、光に照らされた彼らの表情にしかない。顔の表情、特にその瞳は純粋な好奇心に満ちあふれて輝いている。手のしぐさもどこか大人びていて暗示的だ。光の正体（ひみつ）は探して見つかる様な外在的なモノでなく、三人の子供に内在している光、例えば命とか叡智の光か。彼らの未来に向かって託された期待は大きい。不安も大きい。

審査員特別賞「とおくのともだち」（aya）

私が審査員特別賞に選んだ作品「とおくのともだち」は、そのユニークな発想、ユーモアのセンス、雄大な空間から細部まで描ききる描写力が優れていた。太陽が沈んで間もない明るい空に雲がたなびいている。逆光となった大地とバオバブの林が黒い影のシルエットで浮かび上がる。

きりんの足が見え、視線はきりんの首を見ながら上昇して行くと夜空には星がきらめき、満月が出ている。宇宙に展開された壮大な、きりんのロマンス（恋物語）はどうなったのか。お月様はもう眠りについている様だが、きりんは何か伝えようとしている。きょとんとした、目が点のきりんの表情が愛らしい。



タブロー部門 審査員

## 村井 美樹

〔タレント・俳優〕

1979年京都生まれ。2002年NHKドラマで女優デビュー。俳優業の他、テレビ東京「旅バラ」テレビ朝日「Qさま!!」NHK「鉄オタ選手権」「日本最強の城スペシャル」など、多方面で活動中。早稲田大学在学中に博物館学芸員資格を取得。全国の美術館や芸術祭にも足を運ぶアート好き。7歳女兒の母で大の武井武雄ファン。

今回も皆さまの個性豊かな作品の審査に関わらせていただき、大変ありがたく光栄に思っております。

今回のタブロー部門のテーマは「ともだち」。童画との親和性が高いテーマということもあり、伸びやかなタッチで描かれた、明るく楽しい作品が多く寄せられたように感じました。今回の選考でも上位の作品は非常にレベルが高く、どの絵が選ばれてもおかしくないほどの完成度で、いつも以上に悩みながら真剣に選ばせていただきました。

## ◇日本童画大賞 かいすみさんの「優しくになりたい」

心臓をギュッと掴まれたような、切ない気持ちにさせられる作品で、強く心惹かれました。大きなキノコの下で背中合わせで雨宿りをする女の子とクマ。女の子は泣きたい気持ちをこらえているかのようで、「優しくになりたい」のうまくいかず、複雑な思いを抱えた表情をしています。女の子とクマの関係をさまざまに想像させるような、微妙な心の揺れや距離感が表現されており、一枚の絵にとっても豊かな物語性を感じました。

雨の表現もしっとりとした湿度感があり、滲んだ背景や雨粒のきらめきなど、まるで女の子の心情を映し出しているかのようです。また、二人を見守るように配置されたネズミやベビ、カエルやコウモリの表情にはユーモアもあり愛らしさも感じられます。さらにカラフルに彩られたキノコ達がこの絵に温かさを添えていて、決して暗さだけには終わらない希望も感じさせます。やがて雨が上がり光が差し込むように、ともだちに心を開く瞬間がこの女の子にも訪れてほしい、そんな思いを抱かせる作品でした。

## ◇優秀賞（信毎賞）山口新さんの「ひみつ」

スクラッチのような光の表現が斬新で美しく、非常にインパクトがある作品です。数ある作品の中でもひときわ目を引く存在でした。通常は影の部分を線で表現することが多いですが、この絵では黒い紙に明るい色の水彩、アクリル、色鉛筆を用いて、光の部分を線で描いています。このアイデアが面白く、丹念に重ねられた光の線には躍動感があり、画面に独特の生命感を生み出しています。

ともだちと布団や押入れを基地にして、暗闇の中で自分の宝物を見せ合ったり、綺麗な石を懐中電灯の光に透かしてみたり…目をキラキラ輝かせながら、「ひみつ」を共有した子どもの頃の記憶が呼び起こされます。あの時の胸の高鳴りが蘇るような、ノスタルジーを誘う作品です。

## ◇審査員特別賞 桑澤里美さんの「私のともだち」

女の子のお転婆そうなイタズラっぽい表情がとても魅力的で、思わず惹きつけられました。女の子の分身のような存在の小さな子どもたちは、おそらく女の子のイマジナリーフレンドでしょうか？その動きも愛嬌があって生き生きと描かれていて、見ていると自然と笑みがこぼれます。

女の子が持つスプーンには、小さな子どもたちは映っていないかのように見え、フォークも置かれているのか持ち上げられているのか曖昧な表現になっています。あえて現実か空想の世界かをはっきりさせないようにしている点も、この作品の世界観をより深いものにしていました。

今回の選考を通して実感したのは「ともだち」のあり方は実に千差万別であるということです。寄せられた多彩な作品から「ともだちの本質とは何か？」を改めて考えるきっかけをいただきました。

これからも皆さまのさらなるご活躍を心よりお祈りしております。そして皆さまの作品が「ともだち」のように子ども達の心に優しく寄り添い、その人生を豊かに彩っていくことを願っております。



絵本部門 審査員

## 黒井 健

[絵本画家]

1947年新潟県生まれ。新潟大学教育学部美術家卒業。日本児童出版美術家連盟会員。主な作品に『手ぶくろを買いに』『ごんぎつね』（偕成社）『おかあさんの目』（あかね書房）『ゆきのひのころわん』ほか、ころわんシリーズ（ひさかたチャイルド）『とっともとっともいいきもち』（フレーベル館）ほか多数。

2003年に山梨県清里に、自作絵本原画を常設する「黒井健絵本ハウス」を設立する。

第1次審査で選出された21点の作品について最終審査をおこないません。

- ・作品のテーマは明確だろうか。
- ・そのテーマは絵本を見る子どもたちにどんな楽しみや喜びを与えるのか。
- ・展開においてテーマが曖昧になっていないか。
- ・キャラクターの表現はオリジナルか、背景の表現など絵の完成度はどうか。
- ・そして、おもしろいか。

以上の点において、三人の審査員でディスカッションがおこなわれます。最終審査において大賞、優秀賞候補として残った作品は絵においては完成度が高いものが多く、決定に難航しました。

・日本童画大賞「にんじゃがポテト」

キッチンカーの店長が事件が起きると正義の味方に変身して大活躍をするストーリーは痛快で、漫画的なコマ落としの構成も臨場感を盛り上げていました。絵の表現と共に元気に溢れていて読者ワクワクさせることを期待して大賞に決定しました。

・優秀賞（諏訪しんきん賞）「なくいえ」

長い間、家族を見続けてきた古い家はある日大震災に遭遇します。一人で住み続けてきたトキおばあちゃんも住めなくなってしまいます。それを悲しむようにキューと家鳴りがしました。旧家の梁などおさえられた色調の表現が見事でした。

・審査員特別賞（黒井）「月あかり文庫」

決して器用な絵ではありませんが、月明かりを感じるようでなんだかとても良い絵でした。ストーリーについてはまだ整理が必要かと思いました。

\*尚、賞に選出した作品には、また次回も見せていただきたいと大いに期待を込めています。



絵本部門 審査員

## 竹迫 祐子

[(公財) いわさきちひろ記念事業団理事]

1984年に同財団に入所。1996年より安曇野ちひろ美術館（長野県）に勤務。学芸員として館内外の展覧会を担当、作品収集、国際交流に関わる。著書に、『永遠のモダニスト 初山滋』『ちひろの昭和』『ちひろダイアリー』（以上、河出書房新社）『ちひろを訪ねる旅』（新日本出版社）等。全国学校図書館協議会絵本委員、東京子ども図書館理事。

今回の絵本部門の審査に当たり、審査員が一様に感じたのは、全体のレベルの高さ、このまま出版できるかも？と思わせる作品がいくつかありました。そうした中で、大賞に輝いた「ニンジャがポテト」と優秀賞となった「なくいえ」、まさに好対象と言える二作。「ニンジャがポテト」が、文字通り老若男女、幅広い読者を楽しませるエンターテインメントであれば、「なくいえ」は幼い人には少し分りにくいかもしれませんが、読者の心に静かに染み入るタイプの絵本と言えます。

大賞のケイツカサさんにとって、今回の受賞はビギナーズ・ラックに近いものと聞きましたが、近年の絵本動向や人気の要素を研究しての本作であることは読み取れます。その意味では、文句なしに面白い！と思わせる反面、どこか既視感を抱かせるところがありますが、様々な絵本の表現や演出を“我が物”にする手腕は高く評価されます。

一方の優秀賞のけしょうまいさんは、建築を専攻したと聞き、家の描写の見事さにも納得がきました。古い民家の構造への正確な理解や空間把握があるからこそ、水彩でしっとり描かれた家の内部や海辺の町の家並みにも、抒情性と共にリアリティがあります。

審査員特別賞の「雨乞いとクジラ」は、所謂、昔話風の「雨乞い譚」ですが、日本画的な美しさが魅力的です。山本いつこさんは、空を飛ぶクジラの勇壮な描写にも渦巻く波の描写にも、日本画の伝統を生かしつつ今日的なデザイン感覚を息づかせています。

こうして三作品を改めて振り返ると、度重なる獣害や地震や大雨等、深刻な自然災害等、今日の人間社会が生みだした問題や課題を含んでいることに気づかされます。そして、作家たちがその先に人と人との「共感」や自然との「共生」をイメージしていることが感じ取れます。

そうしたところからも、絵本は時代をビビッドに反映しながら生まれるものであること、そして同様に、この日本童画大賞もあることを実感します。



絵本部門 審査員

## 池上 理恵

〔フレーベル館取締役執行役員〕

1967年、山口県生まれ。(株)フレーベル館取締役執行役員 コンテンツ事業部副事業部長。美術系出版社、教育系編集プロダクション、フリー編集者を経て、2001年、(株)フレーベル館に入社。編集部にて、市販向け絵本・児童図書、一般図書の編集、月刊絵本キンダーブックのおはなし系絵本・「しぜん-キンダーブック」、電子書籍の編集部長、版權輸出部門部長を経て現職。

武井武雄先生のご縁に導かれ、フレーベル館の共催も今回で5回目となりました。この10年間で応募作品の全体的なレベル向上は著しく、選考に関わらせていただいている弊社編集部も大変嬉しく感じています。

とりわけ、第13回は応募数も増え、最終選考に残った作品の質が高く、それぞれに個性があって、選考には大変悩まされました。

大賞作品の『ニンジャがポテト』は、ダジャレを効かせた楽しいテキスト、メリハリの効いた構図、軽快なストーリー運びと、絵本としての総合力の高さが際立っていました。さらに登場するキャラクターが魅力的なので、シリーズ化や、絵本の枠を超えた、商品化や映像化等の可能性の広がりも期待させる作品でした。

一方、優秀賞の「なくいえ」は、被災した家の視点から描いた珍しい作品で、絵としては一切擬人化して描いてないのに、主人公である「家」に感情移入させ、切なさを読み手に感じさせる技量が卓越しており、絵本の表現の可能性を広げてくれる挑戦的な作品だと感じました。作風は対照的ですが、甲乙つけ難い二作品でした。

審査員特別賞は、『うらしましんかい』。とても興味を惹かれる作品として選びました。まず、その絵の描き込みのすごさ！モチーフになっている深海の生物や、深海の図書館、街の風景へ注がれた作者の熱量は相当なものです。昔話の「うらしまたろう」の展開をベースにしながら、全く現代的な一種ホラー風味も添えた「現代版浦島太郎」となっていました。

作品からほとばしる圧倒的なエネルギーに、作者のかたは、よほどの「深海」好きなのだろうなと思っていましたが、決してそうではなく、お仕事で触れ合う子どもたちの深海への興味に目をつけて、この作品を生み出したとのこと。しっかりと読者を想定して描いていることも、今後の作品への期待が高まります。

『うらしましんかい』は、ラストが謎に充ちすぎていて、読者を突き放した感がありますので、子どもたちの感想も取り入れつつ、少し変化させてもいいのかなと思います。

審査会・授賞式・受賞作品紹介展示

審査会 (2026.1.15)



授賞式 (2026.2.14)



受賞作品紹介展示  
(2026.2.15 ~ 2.22)



タブロー部門

応募総数	247
最年少	17
最年長	84
縦長	81
横長	166
県別	
東京	48
長野	25
神奈川	20
大阪	19
千葉	17
兵庫	16
埼玉	13
愛知	11
京都	10
広島	7
岐阜	6
群馬	4
北海道	4
静岡	4
福岡	3
山口	3
秋田	3
石川	3
高知	3
茨城	2
山梨	2
滋賀	2
富山	2
三重	2
和歌山	2
佐賀	2
鹿児島	2
鳥取	2
奈良	1
山形	1
栃木	1
宮城	1
福島	1
熊本	1
沖縄	1
福井	1
愛媛	1
長崎	1

絵本部門

応募総数	155
最年少	19
最年長	82
23ページ	61
31ページ	94
共作	10
県別	
東京	38
神奈川	26
埼玉	13
大阪	9
千葉	9
長野	8
兵庫	7
愛知	5
新潟	5
京都	5
群馬	3
岐阜	2
山形	2
宮城	2
和歌山	2
山口	1
福岡	1
栃木	1
三重	1
北海道	1
福島	1
静岡	1
広島	1
茨城	1
山梨	1
滋賀	1
青森	1
岩手	1
沖縄	1
石川	1
岡山	1
香川	1
愛媛	1
長崎	1

こども絵本部門

応募総数	197
学校別	
岡谷市立岡谷北部中学校	161
岡谷市立小井川小学校	7
軽井沢町中部小学校	2
国立市立第一小学校	2
松本市立鎌田小学校	1
茅ヶ崎市立松浪小学校	1
川口市立飯仲小学校	1
サミットアカデミーエレメンタリースクール長野	1
名古屋市立平針北小学校	1
安城市立桜町小学校	1
姫路市立広畑第二小学校	1
長野市立裾花小学校	1
飯田市立上村小学校	1
台東区立黒門小学校	1
渋川市立長尾小学校	1
池田町立会染小学校	1
多治見市立脇之島小学校	1
軽井沢風越学園	1
鴻巣市立鴻巣南小学校	1
静岡市立清水庵原小学校	1
岡谷市立岡谷田中小学校	1
豊中市立中豊島小学校	1
神戸市立湊小学校	1
飯田市立浜井場小学校	1
渋川市立津久田小学校	1
墨田区立業平小学校	1
北上市立北上中学校	1
明光学園中学校	1
多治見市立南ヶ丘中学校	1
学年別	
小学1年	2
小学2年	7
小学3年	4
小学4年	11
小学5年	6
小学6年	3
中学1年	87
中学2年	76
中学3年	1
県別	
長野	178
東京	4
埼玉	2
兵庫	2
愛知	2
岐阜	2
群馬	2
大阪	1
神奈川	1
静岡	1
福岡	1
岩手	1

タブロー部門／こども絵本部門 審査員

**山岸 吉郎**

[イルフ童画館 館長]

昭和28年（1953年）生。神奈川県小田原市出身。2010年4月よりイルフ童画館館長。  
主な著作 『別冊太陽 武井武雄の本 童画とグラフィックの王様』（共著、平凡社）『版画芸術  
2014年夏号』掲載「武井武雄－版画家としての生涯」（阿部出版）『武井武雄のこけし』掲載「玩  
具文化振興の立役者としての武井武雄」（PIE）『別冊太陽 新版武井武雄の本 幻想世界のマルチア  
ーティスト』（共著、平凡社）『懐かしいお菓子 武井武雄の「日本郷土菓子図譜」を味わう』（共著、  
新潮社） その他、新聞や雑誌に武井武雄や絵画に関するエッセイを執筆。

タブロー部門の今回のテーマは「ともだち」である。武井武雄が1970（昭和45）年に描いた『驚くべき人間』というタブロー画について考えていた時、ふとこのテーマが思い付いた。

“人類の進歩の為と言って、地球を壊しにかかっている”、この驚くべき人間に対峙している絵の中の子供たちを見た時である。何事も「力」によって解決しようと、紛争や侵略をも辞さない人間が大手を振って横行する現代に於いて、多少大袈裟かも知れないが、未来を担う子供たちの友愛による連帯こそが平和を築く礎になると、この絵が語っているように感じたからである。武井は童画表現を通して、いつの時代もこのような驚くべき人間が現れる可能性があるから、気をつけろと子供たちに予言的に訴えかけているのだ。勿論、これは私の解釈であり、「ともだち」感である。「ともだち」という言葉から、当然個人々々各々、解釈や感じ方は異なる。それらを童画として如何に表現しうるか。子供に感動を与える童画として自らの思いを伝えうるかが今回の審査のカギであった。

年々応募者の絵画技術は進歩しており、その意味で絵そのものはレベルの高い作品が多かった。その中で、審査員三人が議論を重ね、かすみさんの『優しくなりたい』と、山口新さんの『ひみつ』が、大賞選考の最後の2作品として残った。『ひみつ』は光の描写が秀逸で、単に「絵」として捉えたならば優っていたと言えないことはない。だが童画として捉えると少し分かりづらさがあった。三人の“ともだち”がいる場所は何処か、彼らを覆っている白いものは何か、多少のファンタジー感を出したかったのだろうか、背景の青とピンクは意味不明だった。正直武井が定義する「童画」としては、如何なものかという疑問を抱いた。一方、『優しくなりたい』は少女とクマ（大きいがぬいぐるみなのだろう）の表現が少し画一的な感じはするが、物語を想起できる趣があった。驟雨のキノコの森で雨宿りという舞台設定も悪くはない。絵自体に奥行があり、主人公たちの周辺にちりばめた、蛇、蛙、ネズミ等が彼らを引立て、楽しませてくれる。メインの鑑賞者である子供たちにも分かりやすく伝わると思われ、大賞ということで審査員は最終的に一致した。そして『ひみつ』は、優秀賞に自動的になったわけである。だが最後まで議論が白熱したほど、甲乙つけ難い2作品であった。

(次ページへ続く)

---

審査員特別賞として、私は山口真也さんの『セーター』を選んだ。葉っぱも抜け落ちた裸の木々が並ぶ、寒々とした森に、お尻の毛が取られた羊の背に、その取られた毛で編んだセーターを着た子供が乗っているという設定である。背景の不毛さと子供と羊のほのぼのとした友情の温かみとのコントラストが素晴らしく、更に漫画っぽいウィットが加わっていて見る者を楽しませてくれる。

こども絵本部門はいつものことであるが、楽しく辛い審査となる。今回から、中学生の優れた作品に贈る賞をイルフ賞、小学校高学年（4～6年）はラムラム賞、小学校低学年（1～3年）は赤ノッポ青ノッポ賞と、各賞1名ずつ選考する形式に変更した。成長の著しい時代である。少学1年生の作品と、中学3年生のそれとを同じ土俵で審査するのは、もともと無理があった。事実イルフ賞に応募された作品の絵の中には、一般部門と遜色ないものが幾つかあった。その中でイルフ賞に選出したのは、黒岩知花さんの『十五夜と月』である。太陽と月が諍いを起こし、仲介役となった地球があたふたし、そこに、そんなこととは露しらずにお月見を楽しむ地球に住む母娘がいるという、その凄くナンセンスな構図が笑えて面白かった。絵は多少漫画っぽいですが、上手に仕上げられており、絵本らしい構成にもなっていた。ラムラム賞は篠塚つむぎさんの『はちのお昼寝』で、猫の表情が非常に面白く描かれていた。普段から大好きな猫を観察しているのが非常に感じられ、猫の立場で描いた発想力が素晴らしい。絵も良く出来ていた。赤ノッポ青ノッポ賞は赤木紗彩さんの『ビルさんの生ビールはにがい!!』である。まずパンのファミリーという設定が面白い。しかもパパがドラヤキというところが、私にはシュールに感じ、かえってその小学校低学年らしい発想に唖った。さらに、そのドラヤキパパが、苦い生ビールを飲んで、つぶあんを吐き出すという最後のシーンは大人の想像力を超えていた。文句なしの赤ノッポ青ノッポ賞である。

今回、タブロー部門、絵本部門、こども絵本部門、各々数多くの応募があった。応募数は全ての部門で前回は上回った。また全ての部門で高いレベルの作品が多かった。この日本童画大賞が、日本中の絵本作家を目指す人に、或いは童画ファンに定着した証かもしれない。この賞の関係者としてはこの上ない喜びである。また、審査をしながら多くの童画作品に接することは、紛れもなく心を平和にしてくれる。武井武雄が切り開いた童画文化が、今後一層広まれば世界は必ず平和になるに違いない。

---